

校長室だより～和光高校今昔 増刊号 H26. 5. 26

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

## 開校記念日を祝って

5月26日は和光高校の開校記念日です。沿革によれば昭和47年のこの日に開校記念式典が挙行されたことから制定されたということです。

開校当時の様子が昭和47年5月1日付の「和光市民新聞」に描かれています。『田んぼの中の和光高校』というタイトルです。サブタイトルには「雨が降ればドロコ道」「校庭整備に汗だく」「意外に明るい生徒の表情」の3つが載っています。以下記事より抜粋…



「何もない新設校なのだから仕方がないよ。僕らの手で一步步築いていかなくては」と笑いながらスコップを手に、砂を一輪車に積み込む生徒たち。新倉田んぼの中に作られた県立和光高校は、校庭が未完成。埋め立て工事中なので、雨が降ればドロコグラウンドに化け、数日間はプレハブ校舎にかん詰め。そこで体育の時間は校庭や歩行路の整備作業となる。砂を積んだ手押し車を押す男子、大きな石を拾いあう女生徒の姿は痛ましいが、



こうした恵まれない環境を改善する苦勞も、3年後に晴れて卒業するころには「オレたちが育て上げた学校だ」という楽しい思い出になることだろう。

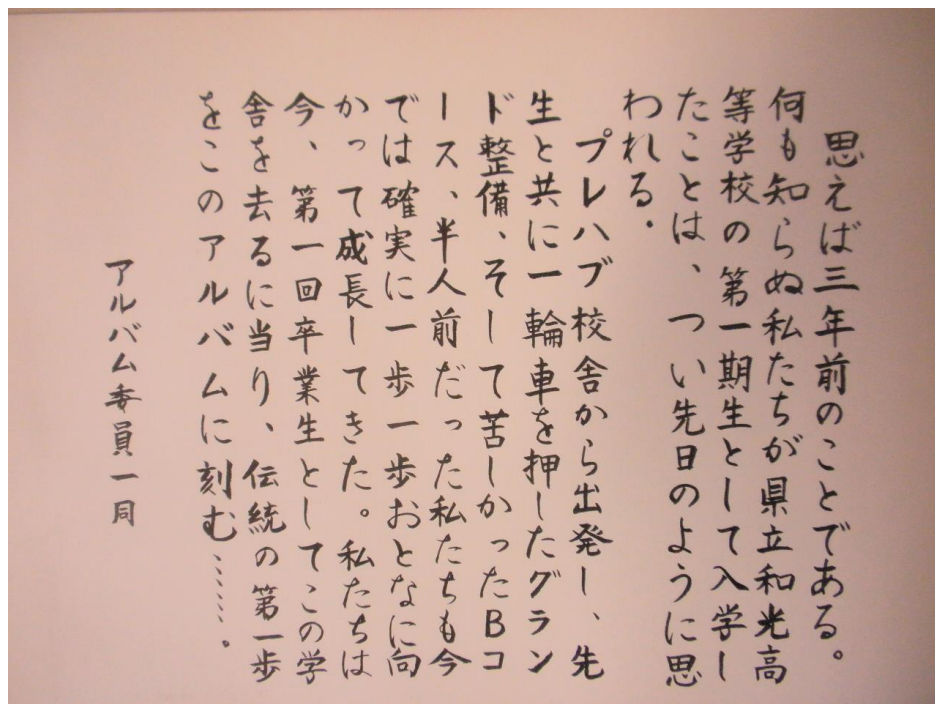


高島朗初代校長先生

開校入学式は4月11日に行われた。しかし誕生したばかりの同校はプレハブ教室が2棟だけの仮校舎なので式場は第二中学校体育館。担任教師が新入生の名前を読み上げるごとに生徒は直立不動の姿勢で頭を下げる。壇上の高島朗校長先生はジッと一人一人の顔を見つめる。無言のうちに『しっかりがんばれ』と激励しているよう。朝8時ころの和光市駅は、制服を着た生徒がドッとはき出てくる。畑道を通って学校へ。校門もなくブルドーザーが一台ある。土を入れるためだ。雨天後はぬかるみ。校門から校舎までの間は木材が敷かれその上に碎石が並べられている。裏側の道も校長先生はじめ12人の先生と生徒たちが総出で整備した。冗談を言い合いながら整備に汗を流す生徒たちの表情は明るい。

このときから43年の月日が流れました。和光市をはじめ朝霞・志木・新座の市民・中学生が待ち望みやっと生まれた和光高校の黎明期の様子が目に浮かびます。先生方と生徒達と一緒に汗を流し作り上げた学校、それが和光高校なのです。

在校生には、PTA・後援会のご尽力でエアコンが導入され、恵まれた環境の中で高校生活を送れることに感謝し、開校記念日を過ごしてほしいと思います。



第1期卒業生アルバム 編集後記より (昭和50年3月)